

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 11 日作成)

小委員会名	音響数値解析小委員会	主 査 名：坂本慎一 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：濱田幸雄
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1. 音場境界条件に関するベンチマークの検討 2. 自主コードの使用評価と事例作成 3. チュートリアル開催	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：坂本慎一(東大) 幹事：富来礼次(大分大), 安田洋介(神奈川大) 委員：石塚崇(清水建設), 大嶋拓也(新潟大), 大鶴徹(大分大), 河井康人(関西大), 佐久間哲哉(東大), 鈴木久晴(日本エヴィクサー), 豊田政弘(関西大), 星和磨 (日大), 堀之内吉成(京大), 横田考俊(小林理研)	
設置 WG (WG 名：目的)	音響数値解析ソフトウェアの調査・開発WG 目的：音響数値解析の手法、およびソフトウェアの実装技法について調査し、解析事例の整備を行う。	
2012 年度予算	57,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s26/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s26/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. チュートリアル「音環境の数値シミュレーション」 第 1 回 波動音響解析 の技法 参加者数 101 名 2. チュートリアル「音環境の数値シミュレーション」 第 2 回 波動音響解 析の環境音響問題への適用 参加者数 64 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリ ックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた 成果との関係)	1. 新たなベンチマーク問題を作成中。 2. 成果として「はじめての音響数値シミュレーション プログラミングガイド」 を刊行した。 3. 2 回のチュートリアルを開催し、音響数値解析技術の普及・啓発に努めた。
委員会活動の問題点 ・課題	ベンチマーク問題に関して、技術の進展に応じて常に新たな問題設定を継続的 に行う必要がある。数値解析技術の普及・啓蒙に関して、今後、初学者への教 育的な普及等、目的を絞った活動を続ける必要がある。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は 2009 年度からの 4 年間を設置期間として、建物周辺の音環境を予測する数値解析手法に関し、設定条件等と精度や有効性の関連、使用に際する制約等の学術基盤を網羅した確固たる基盤の整備を目的とした活動を進めてきた。</p> <p>2012 年度は、音響数値解析技術の進展情報を発信する活動として、2 回のチュートリアル:「音環境の数値シミュレーション」第 1 回—波動音響解析の技法および第 2 回—波動音響解析の環境音響問題への適用を企画・開催した。これらは、本委員会の議論を基に編集を進めた書籍出版の活動に引き続き、環境工学の研究者や技術者に対して広く音響数値解析技術を普及・啓発することを目的とした企画である。このチュートリアルには、延べ 164 名の参加者を集めることができ、広く技術の周知を行う目的は十分に達したものと評価している。</p> <p>また、本小委員会の傘下に組織された音響数値解析ソフトウェアの調査・開発WGでは、解析ソフトウェアの実装技法の整理や実装プログラムの検証等の作業が精力的に行われ、その成果として「はじめての音響数値シミュレーション プログラミングガイド」が刊行されるに至った。</p> <p>以上のように、当初目的である学術基盤の整備に加え、学術情報の発信や技術の普及にも活動を展開できたことから、総合評価を A とする。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。